

講義科目名（コース名）	社会政策 社会福祉政策 社会保障論
名前	西村 正広

【教材の目的と概要】

講義レジュメ・資料等の教材配布と教員から受講生への連絡を目的として、2009年度秋学期から私の担当する講義科目すべてに Moodle のコースを開設している。

【講義における活用方法】

コース開設科目はいずれも受講生 2～300 名の大規模講義科目である。初回講義で「受講前に Moodle から教材をダウンロード・プリントして講義に持参すること」を指示して実行させる。また、受講生への連絡事項は Moodle を用いて通知することを明言して実行する。そのために、講義前日までには必ずコースへアクセスするよう動機付ける。

【授業で使った感想】

「教材配布だけ」の Moodle 活用であるが「されど教材配布」である。私の講義は配布資料が多い。レジュメはもちろん図表や文書資料などの教材を毎回配布するので大規模講義では教材配布の手間と時間がかかる。講義室前方から手送りさせると後方に到達するまでかなりの時間を要する上、その間は私語が渦巻く。逆に教材を教室後方に置いて入室時に取らせることも試みたが、教材だけ取って講義には出ず「持ち帰り」する学生が多く、講義中ひんぱんに「持ち帰り」の学生が出入りして騒々しい。ハン

ドアウトを用いずに教材提示はすべてパワーポイントで行う講義も試みた。しかし図表などの資料は手元に残さなければ復習ができない。

そうした試行錯誤のさなかに Moodle を利用し始め、学生個々に教材をダウンロード・プリントさせるようにした。それによって教材配布をめぐり以下の利点が得られた。

i. 教材配布の時間と手間が不要となり、入室してすぐ講義を開始できる。ii. 教材を入手するためだけにやってくる「持ち帰り」型の学生（講義中に入入りして静粛を乱す）がいない。iii. 配布教材の印刷、丁合、ステープラー綴じ等に要していた手間や手続きが不要になった。iv. 配布教材は履修者数ぶん用意していたので余ることが多く紙資源の無駄であった。また、床に散乱するなどして講義室の美観を損ねる上、講義後に片付ける手間が要る。それらの問題が解消した。v. 配布教材はリソグラフなどの印刷機で作成するため画質が悪いが、Moodle であれば（PC プリンタの性能にもよるが）グラデーションを用いたグラフやイメージ画像など、画質の良い教材を利用できる。vi. 学生は受講前に教材を入手して予習できる。また、欠席しても教材を入手できる。



図 1：トップページ



図 2：教材例（イメージ画像）